

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより7月号

プレミアムフライデー

7月16日は「海の日」です。「海の日」は長い間「海の記念日」と呼ばれ、7月20日に固定されていましたが、2003年の祝日法の改正（いわゆるハッピーマンデー法第2弾）で7月の第3月曜日になりました。

ところで、皆さんは昨年2月24日から実施されている「プレミアムフライデー」は活用されていますか？

導入している企業はごくわずかであるとか、実際に早く帰るのは無理などの意見もあり、現状では一部の大企業に勤めている人たちのみはその恩恵を受けている状態で、労働時間が減った分、時給で働く非正規社員・派遣社員は収入減となり、消費は減少しているということが問題化されているようです。

また、回を重ねるごとに新聞やテレビで取り上げられることは少なくなり、逆にインターネットでは「誰も参加できない取り組み」と酷評されたりしています。

そんな中、SNS等で「天才だわ！代案としてすばらしい」と話題になっているのが「ハッピーフライデー」。

つまり、祝日と土曜日が重なったら、直前の金曜日を振替休日にするというもの。すでにハッピーマンデーは導入されており、「こちらの方が現実的だ」といった意見も多く寄せられているようです。

いずれにしても、本来の「働き方改革」や「消費の活性化」につながる提案であってほしいですね。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“人生においてもっとも得なことは、「読書能力」をつけること”

公文式では発足当初から、数学の学習指導で成果をあげてきていますが、単に方程式が解ける、因数分解ができるという子どもを育ててきたわけではありません。数学や国語や英語の学力をつけて学校の成績を上げることはもちろん大切なことですが、公文式が目標とするところは、考える力を養い、自学自習の態度と習慣を身につけた人間を育てることです。国語はもちろんのこと、数学も社会も理科も、問題の内容をすばやく理解できなくては、正しく考えて答えを見つけることはできません。そのためには読解力がなにより必要になります。書かれていることをすばやく理解できることは学習の基本です。けれども読解力は短期間で身につけられるものではありません。多くの本を読み、さまざまな種類の文章にふれることでつちかわれるものです。そうして得られる力は本を読んで考え、学べる力、すなわち「読書能力」として身につけていきます。この「読書能力」は、本を読んで考え学んだ経験とともに、終生自分のものになり、なにをするときでも大きな力になります。

2018年7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16 祝日	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

7月分の会費引き落としは6月28日（木）です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

様

*ゆき子の一言コラム

低学年・・・学びの姿勢をつくり「できる」よろこびを。

1, 2年生の課題で最も大事なことは、一斉授業の学習に慣れさせることです。入学したての子はどんなに説明しても、物おじしない積極性のある子は、「先生」先生と一人ひとりが先生のところにやってきます。一人が来ると、われもわれもととやってくるのです。こどもは集中が5分ももちません。でも、5分の集中が大切なのです。先生は遊びと学習の違い、遊び時間と授業時間の明確に示し、厳しさとやさしさのなかに、担任への安心感や信頼を子供が感じだすと、学習規律が高まっていきます。保育園や幼稚園は生活面での自立の課題を優先させていますが、まだ1年生だからといって、小学校に入学してから同じようなことをしてはだめだと私は考えています。学校は学習するところです。学習によってきたえられた脳の働きによって、自分を律し、自分の生活を整え、自分の能力を開花させる術を学ばなければなりません。1年生の学習面の課題は、正しく鉛筆を持ち、文字を書き順通りに覚え、書くこと、そして大きな声で音読ができること、繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算が暗算でできることです。最近の脳科学の進歩で、人間の前頭前野(脳の中で最も重要な部分)を鍛えるのに最も優れた方法は、音読と単純計算だということが証明されています。公文でまず国語、算数をしっかりやって、一人でやっているからいいではなく、しっかり間違いなくやれているか、お父さんお母さんがしっかり見てあげることが大切です。基本がしっかりできれば、できるなりに課題を与え、習熟させてあげることがだいじです。学習で鍛え、学習規律が成立し、きっちりとしつけられると、2年生になった子供たちはこれからどんどん伸びますが、学習によって心地よく鍛えられていないと、2年生の後半から子供たちは赤ちゃん返りならぬサル返りを起こします。

授業と遊びの区別がつかず、ガサガサ、ざわざわ騒がしくどんなに注意しても聞き入れません。まさにサルヶ島状態になります。ご家庭でも次の点に十分注意してほしいものです。

- ①自己抑制力は脳の前頭前野を鍛えることで発達するので、「読み・書き・計算」で子どもの脳を育てること。
 - ②「できる」ことが子どもの自己肯定感を高める一番の方法なので、学習(宿題)できたえ、「できる」喜びを毎時間毎時間味わわせること。
 - ③学習と遊びの区別が子どもにわかるように、教科学習を凜々しくすすめ、各教科が生活科化しないように気を付ける。
 - ④宿題を毎日、最低15分ほど父母との連携で家庭学習の習慣をつけること。
- 2年生の重点課題は、国語では音読と逐語的読解の初歩の指導、それに作文です。算数では足し算、引き算の筆算とかけ算九九の確実なマスターです。

中学年・・・3年生は計算、4年生は漢字を中核に

「中学年」と3年生、4年生をひとくくりにしても、個人差はあります。この時期に子供たちの発達の質的な変化が起こります。3年生は、学校生活になじみ安心して自分を伸ばそうとする2年生の時期から発展して、子ども同士、仲間同士の規範で行動するようになります。変な言い方ですが、3年生は、学習面では「4年生の落ちこぼれの準備期間」とも言えます。行動が活発になり、家庭でも1、2年生の時のように親が子どもの学習に身を入れなくなくなり、目を離す時期でもあります。この時期に学習面でいい加減なことをしてしまうと、4年生で一挙に落ちこぼれ現象が起こります。3年生の大事な課題は

- ① 公文で渡された宿題を毎日時間を決めて、父母の前できちんとできるようにすること。
 - ②3年生で一番伸びるのは、計算力なので1、2年生の課題に習熟させ、指算ではなく暗算でできるように取り組む
 - ③1、2年生の漢字を筆順通り、完全にマスターし習熟させること。
 - ④音読を重視し、読み取ることへの喜びと自信を深めさせるためいろいろな本を読ませること。
- 4年生と3年生の間にある、いわゆる「9歳半の節」というのは、抽象的な思考を要する課題が出てくること、大人への準備が始まります。3年生の時に簡単なことをいろいろと習熟させ、学習に努力する姿勢を整えておけば、特別な障害がない限り誰でも通過していきます。4年生は3年生の群れでの行動から、個の世界が育ち始める時期でもあるのです。(次回は高学年・・・5年生6年生について)

***教室での決まりごと。①はきものはきちんとそろえよう！ ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！
③もちものには なまえ をかきましょう！④でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください！**